月瀬だより ファイナル

平成２９年　５月１９日　第　３号　文責：月瀬小学校長　大林千代喜

人前でも堂々と発表

子どもたちに授業についてのアンケートを行いました。

（４：よくできる　３：できる　２：あまり　１：できない）
①自分から進んで学習できていますか？
　４：４名　３：８名　２：２名
②じっくり考えることができていますか？
　４：６名　３：８名
③友だちや先生に自分の考えを進んで話すことができますか？　４：５名　３：９名
④みんなで話し合うときにしっかり聞いていますか？
　４：１２名　３：１名　２：１名
⑤「ピン、ベタ、ジー、はい」を守ることができていますか？　４：５名　３：６名　２：３名
⑥みんなの前で堂々と発表できていますか？
**　４：７名　３：２名　２：５名**

子どもたちは、しっかり考え、しっかり聞き、自分の考えを進んで話し、積極的に学習していると考えている人が多いようです。

しかし、先生方は積極的な学習とまではいっていないと考えています。来年度からは人数の多い教室で学習することになります。どんなに人が多くても自分から進んで学習し、人前で堂々と発表できる子どもたちを育てたいと思っています。そのために発表する機会を多くし、内容を深めていきたいと考えています。

考えたらすぐに発表

２年生の音読発表

月瀬の歴史から②

うれしい愛鳥の心
先輩が残した小鳥守る

昭和４２年２月２１日発行の朝日新聞に掲載された記事です。

「昨年の卒業生がおこづかいを出し合い、卒業記念にと熊本市の小鳥店から買ってきたジュウシマツ、カナリア、ベニスズメ、セキセイインコ、ハト、全部で２７羽。ＰＴＡが作った校舎裏の小鳥舎に入れてあったが、冷え込みで６羽が死んでしまった。心配した児童たちが臨時児童会を開き、ストーブのある職員室で飼わせてほしいと、当時の前田校長に頼んだ。同校長も快く承諾し、職員室に移された小鳥たちは元気になり、春のさえずりが聞こえるようになった。日頃職員室に入りたがらない児童たちだが、小鳥のおかげで職員室がぱっとにぎやかに明るさを増した。・・・」

今も体育館の前に鳥小屋がありますが、何もいません。鳥インフルエンザが流行して、さらに飼えなくなりました。生きものの世話をして学ぶことは多いのですが、残念ですね。

当時の記事の中の写真から

最後のたいこ開き

８日（月）に、太鼓指導の清島先生を迎えて実施しました。「月瀬太鼓」は、本年度で最後になることや２０周年を迎えた月瀬太鼓もみんなが最後の「たたき手」になることを話しました。

また、みんなががんばれば「キープオンスマイル」というＦＭラジオの番組で東京に行って演奏できるかもしれないことを話しました。

その後、高田先生や清島先生から熱心な指導を受けました。

璃久君もギブスが取れて、１７日（水）には、太鼓の衣装を着けて、写真撮影や演奏を録画しました。

清島先生と高田先生の模範演奏

指導を受ける蓮輝君

最後のもみまき

１２日（金）の午後から、坂本鐵夫さんを会長とする長寿会の皆さんと髙木秋男さん、ＰＴＡからも来ていただいて実施しました。最後の種もみまきは、今までの「もち米」に加えて「ふつうの米」も行いました。

先日、私の方から「ふつうの米」も少し収穫できないか相談したところ、すぐに段取りをしていただきました。昨年度、自分たちでおにぎりを握って地域巡りをしましたが、そのお米も自分たちで育てたものでできたならと思ってお願いしました。良い経験ができそうです。

坂本鐵夫さんの話

まず土を入れて

学校教育目標　**みんななかよくみがく　知恵と心と強い体　の月瀬の子ども**
めざす子ども像　元気な子　やさしい子　かしこい子